

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104013		
法人名	株式会社ハッピーパーク		
事業所名	グループホームハッピーパーク夢が丘		
所在地	長崎市小江原5丁目25-10		
自己評価作成日	平成22年2月17日	評価結果市町村受理日	平成22年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺症状の改善策として、改善されるべき事は改善し認知症の症状が少しでも悪い方向性へと向かないように入居者の方と常に向き合い話し合っていくという姿勢を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は運営理念に沿って毎年自分たちの言葉で「介護理念」を作り支援を実践している。管理者は、職員が働きやすい職場となるよう、日中5人体制としている。このことで、マンツーマンでの外出など利用者本位の支援が実現できていることは事業所の優れている点である。更に支援について職員間で検討したことに関して、管理者は職員に任せており、実践状況から注意をすることもあるため、職員にとって責任とやりがいがある職場となっている。ケアプランも担当者が日々の記録と職員間で検討し内容を基に作ることで、より利用者 に合った計画が作成できており、職員も自ら立てた計画に沿った支援に本気で取り組んでいる。管理者と職員の信頼関係が、利用者本位の支援につながっていることが事業所の優れている点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日各スタッフが(今日も1日頑張ろう!!)という思いを込めて、就業前に理念や介護目標を唱えている。 理念や介護目標を唱えることにより自然と体に浸透できる事を期待する。	事業所の介護理念を基に職員で目標を作っている。「思いやりのある、やさしい介護」を目指しており、利用者本位のマンツーマンのケアを実践している。事業所だけでなく利用者にとっての地域交流についても話し合っており、理念の共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の犬の散歩を通じて地域の人に挨拶(声かけ)を行っている。 関連施設と(10事業所)350坪の農園を10区画に区分けし福祉農園(交流の場)となって行きたいと思っている。	子ども110番を引き受け、日々の散歩時など周辺住民との顔見知りの関係が築かれている。また、ホーム所有の畑を学童との交流場にする計画もある。地域の祭への参加呼びかけなど自治会との連携も得ており、日頃から交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催のもと、GH管理者がキャラバンメイト認知症サポーターとして地域の方々に展開しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の入居者の活動報告や貴重なご意見を頂戴し大切に生かさせて頂けるよう努力しています。	2ヶ月に1度、規定のメンバーで開催されている。ホームの状況、外部評価などの報告の他、消防の話があるなど意見交換は活発である。参加メンバーの提案で、利用者の活動記録を数値化する取り組みを行なっている。その結果、参加者にもわかりやすく、職員もサービス向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者はキャラバンメイトのメンバーで地域の認知症サポートとして定期的な活動を市の担当者と連携している。	管理者は市と協働し「認知症サポーター」として地域の民生委員を対象とした認知症キャラバンの講演会に関わっている。またすこやか支援課にはホームの状況について相談など行っており、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者からみてスタッフは少しでも利用者に納得して頂ける様帰宅願望者(毎日のようにあられる方)も精一杯の声かけ対応を行っている。 玄関の施錠は夜間以外は行っていない。	身体拘束については職員と話し合い、利用者を拘束することなく見守り支援を重要視している。玄関は夜間のみ施錠である。職員は常に拘束を意識し、身体のみならず言葉による拘束についても職員同士で話し合い、利用者本位の支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			

グループホームハッピーパーク夢が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方の中に成年後見制度を受けられている方がいるので関係者の方と話させていただく機会が多い方だと思う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書を目の前で説明し納得して頂ける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	固定の家族の方が運営推進会議に参加され他の方々も参加しなくて良いのだろうかと思いましたが他の家族からは一任されるとの事。家族会をH21年12月に開催し話し合いの場(家族会を開催したいと思いましたが)が参加者1名の状態で、現状で申し分ないし、その都度お話をさせて頂いていると言われる。	家族は訪問時に職員へ直接気軽に話せるよう雰囲気づくりを心がけており、支援に関しての要望、希望等聞き取っている。また、行事の際に参加した家族に問いかけたりし、家族からの要望を聞く機会を設けるなど工夫している。ただし、事業所から家族への連絡が十分ではない。	職員異動、年間行事、経営母体の変更などの報告体制が整っていないため、家族に報告する体制や工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		毎月の会議の時に職員間での意見交換を行なっている。管理者、代表も参加し、職員の有給休暇や現場体制についても話し合われており、検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H21年度は、関係グループホームの現場実習に全員参加する機会を設けることができた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者に対しては、関係事業所2級ヘルパー受講を受けられるシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会主催の研修会(グループワーク)に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居した当初は、不安で一杯であることを踏まえスタッフ全員に情報を伝え声かけや目配りを多くすることで、本人の不安が少なくなるよう配慮し困っていることの情報キャッチできるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった時点で、入居についての家族との面接や契約・重要事項の説明等を担当者が行うようになっている。その時に入居に当たっての家族の希望や困っていること等、時間を多く使い話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人が中心となれるような介護支援が提供できるよう声をまめに言い希望に添えるような働きかけに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1階リビングにてレクや健康体操を通して入居者同士の関係調整に努めている。 健康状態良好の方は1階リビングにて日中過ごして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要であれば利用者のパイプ役になり利用者の心の叫びを家族にお話しさせて頂ける様心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	担当主治医は、可能であれば入居されてからも往診医になって頂いている。	ホームでは家族との絆支援を大切にしており、家族の協力を得て手紙のやりとりや電話など行なっている。また、近隣からの利用者は近くの馴染みの場所へ出かけるなど関係継続へ取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	NO18と関連(同様の答え)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当事業所の各スタッフが入居者と一人ずつ担当制をとっています。また担当者が3カ月ごとのモニタリング及びアセスメントを実施し、計画作成担当者と情報のやり取りを実施することで本人本位のサービス提供に努めています。	職員は利用者とマンツーマンで話す中から意向を聞き把握している。意思疎通が難しい方には、聞きかけを必ず行い、聞く姿勢を大切に、利用者のサインを見逃さないようにしている。気づきは個人記録と申し送りで職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	上記同様	短期3ヶ月での見直しを行っている。活動記録も毎日作成されており、本人の要望を聴取し、訪問時や電話などで家族へ要望を聞き、カンファレンス時に話されている。職員は一人ずつ担当を持つことで介護計画の重要性を理解し、全職員の日々の支援に繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの毎日の実施状況を個別にチェックしていますのでスタッフ間の情報の共有はできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所のスタッフ体制で昼間の時間帯は手厚い人数を確保しておりますので、その時々ニーズには対応しやすい状況となっております。		

グループホームハッピーパーク夢が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される夏祭りやイベント等に積極的に参加させてもらっている。町内の夏祭りには特別席を設けてもらい参加しやすい協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのホームドクターに往診して頂くことができれば入所後もその方の病歴や体調を一番ご存知なのでお願いしている。現在2か所、(協力医療機関以外)から2人の入居者の方に往診に来てもらっている。	かかりつけ医を継続することを基本にしており、2名の利用者には毎週往診もある。現在、夜間対応が可能な協力医療機関への変更を検討している。緊急時は家族に連絡し、受診後の報告も行っており、適切な医療が受けられるよう検討を重ねている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職の為にスタッフより報告受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、個人情報的な面でドクターと直接お会いすることがなかなか難しいので家族との連絡を密に取るように心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的ケア(入院して)の必要か否かは、主治医の考えにゆだねている	事業所の方針として、ターミナルケアについては、老衰以外は医療機関に移送することとしている。終末期を迎え入院した時点で、状況を見て家族と話し合い、主治医の考えを反映させて、看取りを行なうかどうか決めていく。ただし、事業所の方針等は文書化されていない。	指針や方向性を明確にし、職員や家族と理解し共有することために文書化し話し合う場を持つことを期待したい。また段階を踏んで家族の意思確認をし、職員が理解する仕組みの検討も望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回2月と7月に夜間想定避難訓練を実施しています。年に1回は小江原消防署から緊急時の対応を(入居者の実態)を確認するとともに避難経路及び協力体制の方法を指導に訪問してもらっている。	スプリンクラーを設置している。緊急通報ダイヤル表や災害マニュアルを作成しており、地域の協力については運営推進会議で話している。近隣に住宅がないため、現在のところ訓練への参加はない。年2回、夜間想定で訓練のほか、消火器、通報の訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としてをもとに個々の入居者に合わせた声かけを行っている。スタッフ全員で作ったサービスの基本姿勢を入口の目につく所に張り気付けるようにしている。管理者は常に主任クラスに対し言葉使いやプライバシーの保持に関し、部下に対し注意するよう促している。	新人教育ではプライバシーの保護について実例を挙げながら話をしており、全職員には守秘義務の誓約書を取っている。個人記録等は所定の場所に保管しており、外部の目に触れないよう配慮している。利用者の尊厳を損ねない言葉かけなど気をつけながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然と自分の訴えや思いを言える様な雰囲気づくりができるのではとおもう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には入居者のペースで生活が送れるような配慮を心掛けている。毎日の笑顔で日中が過ごせるようスタッフ全員が実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼間は普段着、夜は寝巻にと必ず着替える事は習慣となっているため、身だしなみに関してはできている。おしゃれに関しても全く違和感なく普通に支援することができている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフ側からお願いしなくても入居者の方から「手伝いしましょうか」などの姿勢を見せてくださる。	利用者の好みを聞きながら、毎日買い物をして料理している。利用者は包丁で調理する人や茶碗洗いなど一緒に行なっている。ミキサー食など状態に合わせて提供している。外食は、職員とマンツーマンで出かけ、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分(飲水)チェックを毎日計測している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夜間帯は、義歯を外しポリドントにて消毒を行っている		

グループホームハッピーパーク夢が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表(時間帯ごとの)を作成し時間を決めての排尿誘導を行っている	失敗したことを記録し、排尿チェック表をもとにパターンの把握が行なわれている。また、失禁した利用者を注意深く見守ったことで、全体的にオムツが減り、オムツが不要になった利用者の例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午後から遊ビリテーション行い昼間はできる限り体を動かして頂くようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の入浴日は曜日ごとに決まっていますがグループホームの場合は予定通りの入浴は困難であり、状況に応じ入浴の曜日や時間の変更などその都度対応しています。	週に2回の入浴を基本としている。同性介助にも対応しており、入浴拒否の方には担当者でなく新人職員が声かけするなど入浴を支援するための工夫をしている。車椅子は2人の介助で、入浴を楽しめるよう支援している。ただし、週2回の入浴では十分ではない。	入浴回数を週2回より増やし、利用者の身体の清潔保持を支援することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、夜間帯に気持ち良く眠れるよう昼間の時間帯は、体調が悪い場合を除き、特に抵抗なく皆さんリビングで色々な活動を行いながら楽しく過ごされ、特に昼夜の逆転もなく過ごすことができている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容に変更が生じた時には数日間は体の変動(副作用)に目を注いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえ等をしてもらったり洗濯物たたみや新聞広告紙などで箱や汚物入れ等作るなど日課として行っている。また畑で収穫した色々な野菜を目の前に並べ食べたい料理等を提案していただいたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一対一(スタッフ1・入居者1)の外出やドライブ・商業施設等に行ったりなど実施している。	日常的に外出支援をしており、近くの畑や犬の散歩など出かけている。車を使う外出には、併設のデイサービスの協力を仰ぎ、車椅子利用者も一緒にランタンフェスティバルや花見、大型商業施設などに出かけている。	



グループホームハッピーパーク夢が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などに出かけた場合、スタッフが個別に少額を管理し、支払時などに本人に手渡し支払の援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族に手紙を出し状況の報告を行うなどの介護計画を立案したが本人拒否しなかなか思うように実施できなかった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節ごとの行事や季節感の手作りの絵画や張り絵等を飾り季節感を出している。また、建物自体が普通の家のような作りになっており施設の様な感じがしない。	リビングは日当たりがよく、換気がよく、気になる臭気はない。掃除は朝から行っており、チリや埃もなく快適な空間である。オルゴールの音楽が流れ、温度もほどよい暖かさで、利用者は思い思いに過ごしており、居心地の良さに向けて工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座られる際は会話がスムーズに交わされる入居者のテーブル配置にも気を使い時折席替えなど行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご家族に依頼し、その人らしい部屋になるよう部屋づくりを行ってもらっている。	利用者はそれぞれにテレビや鏡、テーブルや衣装ケースなど自宅で使っていた馴染みの物を配置している。掃除は職員が主に行い、利用者にとって居心地のいい居室を作るよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足腰がまだ元気な方には外回りの掃除や小型犬の散歩をスタッフと行ったり、出来ない方は、簡単な調理の下ごしらえ(もやしの根切りや皮むきなど)を役割としておこなって頂いています。		